

第3学年 国語科学習指導案

平成19年10月31日(水)
2組男子18人女子12人計30人
指導者 佐藤 さとみ

1 単元名

場面の様子を想像しながら読もう(教材「ちいちゃんのかげおくり」光村三年下)

2 単元について

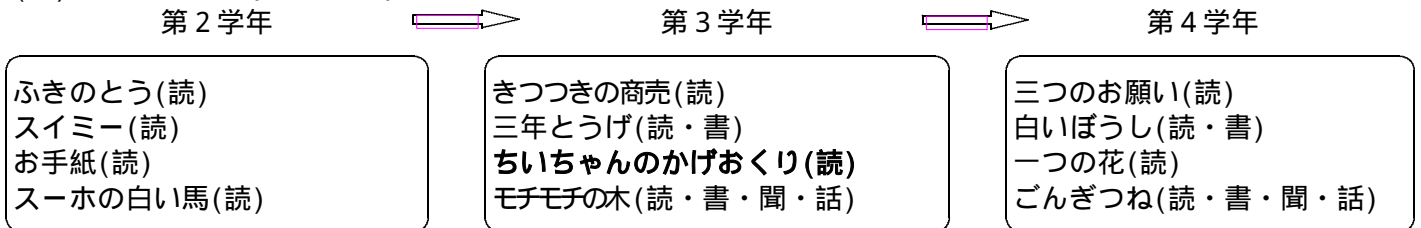
(1) 単元の位置とねらい

子どもたちはこれまでに「本と出会う、友だちと出会う」「本と友達になろう」などの学習を通して、場面の情景や登場人物の行動・様子、心の揺れ動きを考えながら読み進める力を高めるとともに、文学作品のおもしろさを読み取り、気持ちがよく表れるように音読したり自分なりの感想をまとめたりする力を身につけてきている。そこで、場面の移り変わりや情景を叙述をもとにして想像しながら読んだり、書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んだりする能力を高めるために、本単元「場面の様子を想像しながら読もう」(教材「ちいちゃんのかげおくり」)を設定した。

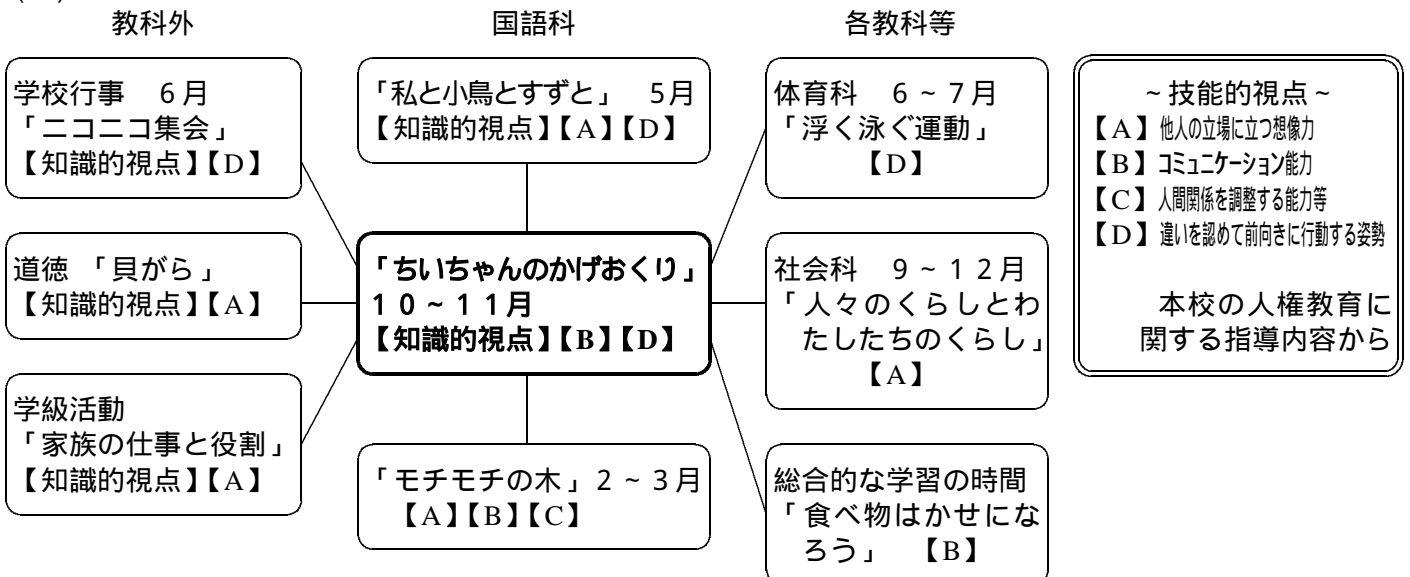
「ちいちゃんのかげおくり」は、幼い女の子を主人公に、戦争に巻き込まれた家族の姿を描いた物語であり、子どもたちにとっては教科書で出会う初めての戦争文学作品である。場面構成は、「記念写真として、家族そろってかげおくりをする場面(第一場面)」「ひとりぼっちになる場面(第二場面)」「ひとりで母と兄を待ち続ける場面(第三場面)」「ひとりでかげおくりをする場面(第四場面)」「戦後、子どもたちが幸せそうに遊んでいる場面(第五場面)」の五つの場面からなる。これらの場面を対比させることで読みを深められると考えている。また、主人公が幼い子どもであることから感情移入もしやすく、音読をするときにも十分に気持ちを込めて読むことができる。当時の時代背景を正確に把握することは難しいが、情景や人物の言動が生き生きと描かれているところから、家族一緒にかげおくりをした時の楽しさや、ひとりぼっちになった悲しさや恐怖を、ちいちゃんの気持ちにより添い感じながら、読み進めることができると考えられる。

さらに並行読書や「ちいちゃんのかげおくり」を学習したことをきっかけにして、戦争に関するいろいろな作品に興味をもたせ、子どもたちの読書の幅を広げていきたい。

(2) 単元の系統(関連事項)



(3) 各教科・領域との関連



(4) 児童の実態

「話す」ことに関しては、積極的にクラス全員の前で話す児童と、なかなか発表のできない児童に分かれる。積極的に話す児童も場が学年集会等になると、なかなか自分の思いを話すことができない。しかし、ほとんどの児童が話せるようになりたいと願っている。そこで、日常の授業の中で話す機会を意図的に設定したり、朝や帰りの会でスピーチを継続的に行ったりしながら、話す活動に取り組んできた。その結果、恥ずかしがらずに話せるようになってきてはいるが、十分ではない。

「聞く」ことに関しては、教師の話・指示や友達の話に関心をもって聞くことの態度が十分でなく、自分の考えと比べられるところまでは達していない。集中して教師や友達の話聞き、内容をよく理解できるように互いに確認をとりながら対話をさせる必要がある。

「書く」ことに関しては、年度当初から板書事項を丁寧かつ正確にノートに写すことを指導してきた結果、写し取る作業は早くなってきた。また、日記指導では書き出しを工夫することと、「うれしい」「悲しい」等の形容詞を使わない約束をして書くように指示したところ、多様な表現を考えられるようになってきている。しかし、書くことがワンパターンになったり、長い文になると主語と述語が合わなくなったりすることが多い。

「読み取る」ことに関しては、読むことの前、自分でじっくり考える態度が身に付いていない。テストや練習プリントなどでは、問題文を読むのを面倒くさがり、すぐに質問をしたがる。読み取りにはそういった態度が大きく影響しており、的の外れた解答をする児童が多い。

その他、アンケート・読み取りテストによる児童の実態は次の通りである。

〔調査人数：男子 18 人，女子 12 人，計 30 人 実施日：9 月 6 日，7 日 重複回答あり〕

アンケート調査結果

| | |
|---|---|
| <p>国語の学習は好きか。</p> <p><u>はい 22人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな漢字を覚えたいから(9人) 物語やいろいろな話を聞いてくるから(8人) 読書が好きだから(4人) おももしろいから(3人) 詩や文を作れるから(2人) 発表がすきだから 本の中が見やすいから <p><u>いいえ 8人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字が難しいから(6人) 文を読むのが難しいから(3人) | <p>物語の学習は好きか。</p> <p><u>はい 29人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> おもしろいから(11人) 登場人物がいろいろあるから(7人) 話を知りたいから(3人) 信じていられるから(3人) 劇(役割演)をみるから(2人) 下キドキを出すから 自分がお話を聞いているみたいだから 物語を自分で作るのが好きだから 無答 <p><u>いいえ 1人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 字を読むのがきらいだから |
| <p>「戦争」と聞いて思ひ浮かぶことや知っていることはあるか。</p> <p><u>はい 29人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> たくさんの方が死ぬ(11人) 悲しいかわいそつ(8人) ミサイル、爆弾、原爆(7人) 殺しあうのが怖い(2人) なぜするの?したくない(2人) 家が燃えてくずれる 防空壕 片道の燃料を積んでつっこむ 広島 じいちゃんがひいじいちゃんに剣を渡した <p><u>いいえ 0人</u></p> <p><u>無答 1人</u></p> | <p>ペア学習は好きか。</p> <p><u>はい 28人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の考えが勉強になるから(15人) お互いの勉強になるから(3人) 話している方が分かるから(2人) 一緒に活動できるところから(2人) 意見を言えるから 友達に考えを言えるから <p><u>いいえ 1人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 好きではないから <p><u>無答 1人</u></p> |
| <p>友達の考えを自分の考えに生かすことがあるか。</p> <p><u>はい 20人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の方がいいことを書いているから(12人) 生かした方がもつといた答えになるから(3人) 考えを聞くことが大切だから(2人) 友達の考えがよきに分かるから 自分も頭がよくなるから 「聞かせて」と言われたから <p><u>いいえ 9人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> まねをしていて気がするから(2人) 付け加えるのはいやだから(2人) はるかしてから(2人) どうやって考えたか分からないから 自分と違って考え方が勉強になるから やろうと思つたことがないから | <p>自分の考えを友達に伝えることは好きか。</p> <p><u>はい 22人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達に知ってほしいから(7人) いい意見になるように話せるから(4人) 納得してくれれば自信がつくから(3人) ほめられるのがうれしいから(2人) お互いの意見が分かるから 言つとすつから 助け合えるから <p><u>いいえ 7人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしいから(3人) 教えられるかをさねるから(2人) 笑われるかもしられないから 自信がないから 何もならないから |

3 単元的目標

場面についてよりよく理解し、情景や登場人物の様子・心情について叙述に基づいて想像して戦争時を描いた作品世界に迫る。

- ・ 言葉や表現に即して、場面の様子やその移り変わりを想像することができる。【関心・意欲・態度】
- ・ 読み取った内容について自分の考えをまとめ発表し、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。【話す・聞く能力】
- ・ 会話や動作を表す言葉をもとにして、情景を想像しながら読むことができる。【読む能力】
- ・ 場面の様子がよく分かるように声に出して読むことができる。【読む能力】

4 指導に当たって

以上のようなことをふまえて、次のようなことを重点に置いて指導をしていきたい。

「つかむ」「見通す」段階では

作品の世界に興味を持ち、初発の感想から学習計画を立て、学習の見通しをしっかりと持たせたい。また、初めてふれる戦争文学であることから、戦争の悲惨さを感じたり、時代背景を確かめたりするために単元と並行して読ませるための戦争に関する図書を用意したい。

同時に難語句、新出漢字の読み、意味を国語辞典を使って調べさせる。単元の「まとめる」段階で音読発表会を行うこと知らせ、場面の様子や登場人物の気持ちを考えながら、意欲的に音読練習に取り組んでいくようにしたい。

「調べる」段階では

キーワードとなる「空」を意識させるとともに、「かげおくり」という遊びに興味をもたせ、実際にやってみる。ちいちゃんの行動や話した言葉に着目させ、一人読みでサイドラインを引いたり、書き込みを入れたりしながらちいちゃんの気持ちを想像させたい。ペア学習では音読表現のもととなった叙述を確かめながら、読み深めるようにしたい。さらにワークシートを工夫し、叙述と対応させながら自分の考えを発表できるようにしたい。

「深める」段階では

一番心に残った場面を選び、読み取った場面の様子や登場人物の心情が現れるように工夫しながら音読をさせる。このとき、なぜその場面を選んだのかを書かせるとともに、どのような様子を伝えたいのか、めあてをもって音読練習に取り組めるようにしたい。

「まとめる」段階では

音読発表会をする。心に残った言葉や文を、場面の様子が分かるように聞き手を意識して音読を発表することができるようにしたい。さらに戦争や平和についての図書を読んだ感想を発表するとともに、一人一人の感じ方に違いがあることに気づかせたい。

「生かす」段階では

これまで並行読書をしてきた図書だけでなく、他にもたくさんの戦争文学があることを知らせ、子どもたちの意欲的な読書活動へとつなげていきたい。

5 人権教育の視点から

- ・ 「父親を戦争にとられ、空襲のために母親・兄ともはぐれ、ひとりぼっちになってしまったちいちゃん。」
「家族と離れだんだんと弱っていき、死をもってしか家族と再会できなかったちいちゃん。」これらのちいちゃんの様子や気持ちを想像させ、戦争がちいちゃんから家族だけでなく小さな命も奪っていったこと、また、ちいちゃんだけでなく、罪のない人々の命を奪い、ささやかな家族の幸せまでも奪っていったことを気付かせたい。
- ・ ペア学習による友達との意見の交流をとおして、友達の考えを聞いたり、友達に考えを伝えたりすることの大切さに気付かせたい。また、友達の考えのよさを発表することで、互いに認め合うことの成就感を味わわせ、活発な意見交換ができるようにしたい。

| 週 | 次 | 時 | 主な学習活動 | 教師の働きかけ・評価 |
|--|---|---|--|--|
| つかむ・みとおす | 一 | 1 | 1 全文を読んで初発の感想を書く。 (1) かげおくりをする。 (2) 難語句や新出漢字の読みを確認しながら全文を通読し、感想を書く。 | 戦時中の人物や場面の様子をとらえやすくするために、写真や実物を提示する。 物語の世界に興味を持ち、初発の感想をもつことができたか。 |
| | | 2 | 2 物語の設定を確かめる。 (1) 時や場所、登場人物をおさえる。 (2) 場面構成を知り、通読する。 (3) おおまかなあらすじをつかむ。 (4) 戦争について書かれている本を並行読書をしていくことを知る。 | 時代背景や戦争中であることを表現している言葉を意識させながら読ませる。 登場人物や出来事などを確認し、あらすじをつかませる。つまずきのある子には、さし絵をもとに順序を確認させる。 戦争で命を落とした人たち（幼い子どもたち）がたくさんいることをおさえる。 全文を正しく読むことができたか。 |
| | | 3 | 3 学習のめあてを決め、学習計画を立てる。 (1) 単元のめあてをつかむ。 (2) 各場面の学習課題を作る。 | 前時でおさえたあらすじをもとに、場面ごとの学習問題を作る。 場面ごとの様子をおさえ、学習の見通しを持っているか。 |
| ちいちゃんの気持ちや場面の様子を想像して音読しよう。 「ちいちゃんのかげおくり」の音読発表会を開こう。 | | | | |
| 調べる | 二 | 4 | 4 叙述に即して、情景やちいちゃんの心情を読み深める。 (1) 第1場面を役割読みをしながら、親子4人の「かげおくり」の様子を3つの視点を中心に読み取る。 ・ 会話 ・ ちいちゃんの行動 ・ 周りの様子 | ちいちゃんの気持ち、両親の気持ち、両方の気持ちを読み取っている子どもの考えを取り上げて比べさせる。 家族4人でかげおくりをしている情景からそれぞれの願いや気持ちを読み取り、情景を想像して音読をすることができたか。 グループで音読の方法を考えて、家族4人の役割演技をする。 |
| | | 5 | (2) 第2場面を読み、火事の中でお母さんたちとはぐれてしまったちいちゃんの様子から気持ちを読み取る。 | 吹き出しをつけたり、空襲の様子を書き抜いたりすることのできるワークシートの工夫をする。 叙述をもとにちいちゃんのおかれた状況や気持ちについて、想像して音読をすることができたか。 友達の考えのよさに気付き、どんなところがよかったかを発表する。 |
| | | 6 | (3) 第3場面を読み、ちいちゃんがおばちゃんの問いかけに深くうなずいたわけを読み取る。 | ちいちゃんの行動や会話に着目させ、ちいちゃんの心細さ、家族に会いたいと願う気持ちを読み取らせる。 家族に会いたいと願うちいちゃんの気持ちを想像して、ワークシートに書き込むことができたか。 |
| | | | かげおくりをしたちいちゃんは、どんなことを考えていたでしょうか。 | |
| | | | お母さんとはぐれたちいちゃんは、どんなことを考えていたでしょうか。 | |
| | | | なぜ、ちいちゃんは、おばちゃんの問いかけに深くうなずいたのでしょうか。 | |

| | | | | |
|--|--------|-------------|---|---|
| 調 べ る | 二 次 | 7 本 時 | (4) 第4場面と第1場面の「かげおくり」の様子を比べながら、一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を3つの観点を中心に読み取る。 ・ 会話 ・ ちいちゃんの行動 ・ 周りの様子 | 一の場面と四の場面のかげおくりについてを対比させて、ちいちゃん的心情や情景を想像できるようにする。 二つのかげおくりの対比的な文章表現に気付くことができたか。 友達の考えのよさに気付き、どんなところがよかったかを発表する。 |
| | | 8 | (5) 第4の場面の家族に会えたちいちゃんの幸せを読み取る。 花畑の中で、家族に会えたちいちゃんは幸せでしょうか。 | 一人でかげおくりをする様子と、空の上で家族に会えたちいちゃんの幻想の中の言葉と、現実では体が弱っているちいちゃんの様子から感じることを叙述をもとに書き込ませたり、発言させたりする。 叙述に即して読み取ったことをもとに、自分の考えをもつことができたか。 |
| | | 9 | (6) 第5場面を読み、ちいちゃんのいない公園の様子を読み取り、ちいちゃんからの手紙を想像して書く。 ちいちゃんが「いくさ」で失ったものはなんでしょう。 | 戦争によって失われたものとちいちゃんの願いを比べさせ、戦争の残酷さを読み深めることができるようにする。 ちいちゃんの願いを手紙にすることで、今自分たちの生活が平和のうえに成り立っていることに気付かせる。 戦争が戦時中に生きた人たちの幸せを奪っていったことに気付くことができたか。 |
| 深 め る ま と め る 生 か す | 三 次 | 10 | 5 一番心に残った場面を選び、音読で伝え合う。 (1) 一番心に残った場面を書き出し、言葉や文の読み方を考え、読む練習をする。 | どのように読むかを書き込めるようにワークシートを工夫する。 これまで読み取った場面の状況やちいちゃん的心情を音読で表しているか。 グループで、登場人物、地の文の役を交代しながら、様子が伝わる読み方を探る。 他のグループの発表をよく聞き、感想やよかったところなどを出し合う。 並行読書をしてきた図書以外にも、たくさんの戦争文学があることを知らせ、いろいろな作品に浸らせる。 |
| | | 11 | (2) 音読発表会をする。 どんな読み方をするとちいちゃん気持ちや周りの様子がよく伝わるでしょうか。 | |

7 本 時 (7 / 1 1)

(1) 目 標

場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読み取ることができる。

場面の様子やちいちゃん的心情がよく分かるように音読することができる。

人 幻想の中でかげおくりをするちいちゃん気持ちを想像することができる。

人 友達との意見の交流を通して、互いの考えを認め合うことができる。

(2) 指導に当たって (人権教育の視点から)

「つかむ」「見通す」段階では

前時の学習場面をふり返り、ちいちゃんが母親との再会を強く願っていることを想起させる。そして、学習の順序が書かれたカードを提示して、本時の学習活動の見通しを持たせたい。

「調べる」段階では

グループで役割読みをさせる。役割は同じ児童だけが多くの文を読むことがないように工夫する。一人調べでは、机間指導をしながら視点に沿った文を見つけられない児童への支援をする。ペア学習では、互いの考えについて感想を述べさせ、自分の考えを伝えるよさを味わわせたい。

「深める」段階では

幻想の中でのかけおくりで家族に会えたちいちゃんの気持ちを想像させる。ここではちいちゃんの気持ちにより添った「家族に会えてうれしい」という感想にとどめておく。音読では音読記号を教科書に書き込ませることで、授業の始めの音読との違いを意識させ、それを机間指導で確かめたい。

「まとめる」段階では

ふり返りの中で、児童が客観的にちいちゃんを見た「ちいちゃんは家族に会えたけど、本当はかわいそう」という感想を出させる。次時の学習課題を確認し、次にそのことを読み深めていくことを知らせ、学習への意欲を持たせたい。